

# 第1学年 国語科学習指導案

日 時 平成21年11月17日(火) 5校時  
場 所 奥州市立江刺東中学校 被服室  
生 徒 1年B組 男子12名 女子11名 計23名  
授業者 長 田 恵

1 単元名 第4単元 古典との出会い  
蓬萊の玉の枝 ―「竹取物語」から― (光村図書「国語1」)

## 2 単元について

### (1) 教材観

蓬萊の玉の枝 ―「竹取物語」から―は、古典特有のリズムを味わいながら古典の世界に触れる、古典との出会いの単元である。

本単元は、「いろは歌」「蓬萊の玉の枝」「今に生きる言葉」で構成されている。中学校ではじめての古典教材に対して抵抗感なく取り組ませ、自分なりの考えや疑問をもって、内容を理解させた上で、思いを込めて朗読させたい。そのために、古文の仮名遣いや言葉遣い、意味などの現代の文章との違いを整理し、言葉の響きを実感させることを繰り返し指導していきたい。

「竹取物語」は、声に出して語られた作品である。指導事項ア(ア)の「古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れる」[伝]ためには、作品の中から、現代に通じるものを見出し、そこに、今も昔も変わらない人々の様々な生活があり、作品を通して、人々の喜び・悲しみ・楽しみ・苦しみ語られていることに目を向け、想像力を働かせながら、読み親しんでいくようにしたい。

### (2) 生徒観

生徒は、古典学習の事前アンケートにおいて、古典(昔話)として知っている作品として、「桃太郎」や「浦島太郎」「つるのおんがえし」などを挙げている。しかし、あまり昔話には馴染みがないと答えている生徒も7人ほどいる。また、音読に関しては、小学校で日常的に頑張ったと意識している生徒は、3人。音読集会などを含め、発表することが好きだった生徒は2人という結果であった。音読発表に関しては、自信のなさや恥ずかしさを理由の一つとしている。4月から読む場面で行ってきたことは、考えるための読み方を意識させる指導である。さらに、読んでいく生徒同士が、力を合わせてつないでいくイメージを持ち音読を向上させることで、それぞれの単元で設定した「読むこと」における課題に近付きたいと考えてきた。しかし、思考につながるよい読み方は、まだまだ一部の生徒にしか達成されていない。

一方、本単元の学習を通して、「音読・暗唱を頑張りたい」「内容をしっかり理解して相手に伝えられる発言や発表をしたい」という生徒を合わせると、12名。学び方として、「友達にアドバイスをできるようにしたい」「しっかりと協力してお互いの役に立ちたい」「みんなで意見を出し合ってしっかり学習したい」などの考えが出されている。

また、心地よい音読はどんな点が素晴らしいからなのかについて考えさせると、適切な「区切れ」「速さ」で読まれていることを指摘した生徒が多かった。単元を通して身に付けたい力として生徒から出されている、「内容をしっかり理解したい」「伝えたいことを伝えられるように読みたい」などの課題と、生徒が現在とらえている音読の課題を、生徒の実態に則して整理することで、音読活動がより効果的に行えたとらえている。その上で、内容を理解した読みのあり方と楽しさを学ばせたい。

(3) 指導観

中学校ではじめての古典教材であることを踏まえ、音読することで、古文の特徴(仮名遣いや言葉遣い、意味など)に気付く学習活動を展開していきたい。次に、気付いたことを、整理し一般化する過程で、友だちの感じ方、考え方を受け止め、自分の考えをふくらませていく活動を大切にしていきたい。

3 単元の見どころ

- (1) 古典の文章と現代の文章の違いに関心を持ちながら読み進めようとしている。  
【国語への関心・意欲・態度】
- (2) 古典の作品を読み、展開に即して内容をとらえることができる。  
【読むこと (1)ウ】
- (3) 作品に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広げることができる。  
【読むこと (1)オ】
- (4) 故事成語にかかわる文章から、必要な情報を集めるための読み方を身に付けることができる。  
【読むこと (1)カ】
- (5) 仮名遣いに注意して音読し、古文の言葉の響きや調子に親しむことができる。  
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(ア)】
- (6) 文語のきまりに注意し、文語のリズムを感じながら音読することができる。  
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(ア)】
- (7) 漢文の訓読の仕方を知り、漢文特有のリズムを味わうことができる。  
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(ア)】

4 単元の指導計画と評価計画

題材	時間	主な学習活動	目標	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
いろは歌	2	古典の作品の種類を知る。 古典特有のリズムを味わう。	古典には、いろいろな種類があることを知り、古典に親しむ態度を養う。 仮名遣いに注意して音読し、文語文の言葉の響きや調子に読み慣れる。	古典に興味・関心を持ち、音読しようとしている。 (観察)		文語のきまりを知り、文語文の調子を味わいながら音読している。 (評価表)
蓬萊の玉の枝	8	古典の文章と現代の文章との違いをとらえる。 場面や情景、人物の関係や心情などを読み味わう。	展開に即して内容をとらえることができる。 作品に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方をまとめることができる。 文語のきまりに注意し、文語文のリズムを感じながら音読することができる。	古典の文章と現代の文章の違いに注意しながら読み進めようとしている。(学習シート・観察)	登場人物の人物像や心情について適切な文章にし、自分の考えをまとめている。(学習シート)	古典と現代文の仮名遣い、文末の表現、言葉の使い方や意味の違いを指摘している。 (学習シート・評価テスト)

今 に 生 き る 言 葉	3	<p>故事成語について由来や意味を調べ説明する。</p> <p>原文を繰り返し読み、漢文独特の言い回しに慣れる。</p>	<p>故事成語について、由来や意味を調べ説明することができる。</p> <p>漢文の訓読の仕方を知り、漢文独特のリズムを味わいながら音読することができる。</p>	<p>故事成語について、由来や意味を調べ、用例を作ろうとしている。</p> <p>(観察・学習シート)</p>	<p>故事成語の意味を理解し、由来や故事を説明している。(発言の内容・学習シート)</p>	<p>漢文を、独特の言い回しに注意しながら音読している。(発表)</p>
---------------------------------	---	--	---	---	---	--------------------------------------

題材	時間	主な学習活動	目標	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
蓬 萊 の 玉 の 枝	1	今まで学習してきた昔話を確認し、「竹取物語」と「かぐや姫」の関係を理解し、おおまかな内容をつかむ。	「竹取物語」と「かぐや姫」の内容の違いを考え発表することができる。	「竹取物語」と「かぐや姫」の内容の違いを考え発表しようとする。(観察・学習シート)		
	2 3	冒頭部について原文と現代語訳を対比しながら理解する。	展開に即して内容をとらえ、自分なりの疑問や考えをもって読むことができる。	原文と現代語訳を対比しながら、疑問や考えを明らかにしようとしている。(観察・学習シート)	展開に即して内容をとらえ、自分なりの疑問や考えをまとめている。(学習シート・発言の内容)	内容を理解した上で、文語のリズムを感じながら暗唱している。(発表)
	4	文語のきまりや文語文の特徴について整理する。	文語のきまりや文語文の特徴を整理することができる。	文語の決まりや文語文の特徴を理解しようとしている。(観察・学習シート)、		歴史的仮名遣いや言葉遣い、意味など、文語文の特徴を整理してまとめている。(学習シート・評価テスト)
	5	「くらもちの皇子の架空の冒険譚」の部分について場面を想像する。	解説文から、展開に即して場面の情景を想像し、まとめることができる。	必要な情報を整理し場面の情景をまとめようとしている。(観察・学習シート)	展開に即して場面の情景を想像し、自分なりの考えをまとめている。(学習シート・発言の内容)	内容を理解した上で、大きな声で正確に音読している。
	6	5人の貴公子の冒険譚の内容を理解する。 帝の行動から心情を理解する。	4人の皇子について資料集をもとに理解しまとめることができる。 帝の行動から心情を考えまとめることができる。	4人の皇子について資料を参考にして理解を深めようとしている。 帝の行動から心情をまとめようとしている。(観察・学習シート)	4人の皇子について、資料をもとにまとめている。 帝の行動から心情を想像し、自分なりの考えをまとめている。(学習シート)	内容を理解した上で、文語文のリズムを感じながら音読している。(評価表・発表)
	7	選んだ場面の内容が伝わるよう工夫して朗読する。	内容を理解したことをもとに、表現を工夫して朗読し、文語文のリズムを味わうことができる。	内容を理解したことをもとに、表現を工夫しようとしている。(観察・学習シート)	内容を理解したことをもとに、情景や人物の心情を考えまとめている。(学習シート)	歴史的仮名遣いや文語に注意して朗読し、文語文のリズムを味わっている。(発表)

8	好きな部分を暗唱する。	暗唱する部分を選び、文語文のリズムを感じながら練習することができる。	暗唱する部分を選び、すすんで練習しようとしている。(観察)	文語文のリズムを感じながら練習し、発表している。(観察・学習シート)
---	-------------	------------------------------------	-------------------------------	------------------------------------

## 5 本時の目標

(1) 内容を理解したことをもとに、表現を工夫しようとする。

【国語への関心・意欲・態度】

(2) 内容を理解したことをもとに、情景や登場人物の心情を考えまとめることができる。

【読むこと】

(3) 歴史的仮名遣いや文語に注意して朗読し、文語文のリズムを味わうことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

## 6 本時の指導構想

古典の特徴を理解して味わったり親しんだりするためには、音声化していく過程に、作品の内容理解が深く関わってくる。よって、前時までに学習し理解したことを十分活用できる資料作りと学習活動に留意し、取り組みたい。

また、グループごとの朗読では、発表者としてだけでなく、互いが観点を明確にして聞くことを通して、古典に慣れ親しみながら、そこに表れた古人の考え方に触れ、思いを想像しながら、言葉の響きを実感できる活動としていきたい。

## 7 本時の評価規準

観点	A:十分満足できる	B:おおむね満足できる	C:生徒への支援
国語への関心・意欲・態度	内容を理解したことをもとに、表現を吟味し、工夫しようとしている。	内容を理解したことをもとに、表現を工夫しようとしている。	内容の振り返りをしやすい環境作りによって、表現につながる視点を見つけさせる。
読む能力	内容を理解したことをもとに、情景や人物の心情を考え、場面の特徴をとらえ、自分の言葉でまとめている。	内容を理解したことをもとに、情景や人物の心情を考えまとめている。	友だちの考えを参考にし、情景や人物の心情が書かれている部分をとらえさせる。
言語についての知識・理解・技能	内容が伝わるように、リズムや間の取り方などを工夫して効果的に朗読し、文語文のリズムを味わっている。	歴史的仮名遣いや文語に注意して朗読し、文語文のリズムを味わっている。	歴史的仮名遣いや文語の注意すべき語を明確にし、レベルを踏みながら文語文のリズムを味わえるようにする。

8 本時の展開 7/8時間

段階	学習内容	指導上の留意点	形態・教材・教具
導入 10分	1 挨拶 2 選んだ作品を音読する ・内容を想起しながら音読する。 3 聞き比べる ・何によって作品の印象が違うか聞き分ける。	・表現の観点を明確にして聞かせる。	CD
<b>学習課題 より内容が伝わるように工夫して朗読しよう</b>			
展開 30分	4 発表する場面の読み方を考える ・伝えたいことを話し合う。 ・音読記号を書き込む。 5 練習する ・どのように読めば内容が伝わるか、ポイントをしぼって練習する。 ・意見を出し合いながら、練習する。	・それぞれの場面の内容を振り返る視点を明確にする。 ・リズム テンポ 声の調子 間を意識して表現できるよう確認する。 【観点:関心・意欲・態度】 (方法:観察・ワークシート)	グループ ワークシート 掲示
	6 発表する ・選んだ場面を発表する。 ・発表を聞き、評価する。 7 感想をまとめる	・発表形態を工夫する。 【観点:言語についての知識・理解・技能】 (方法:観察・ワークシート) ・発表を聞き、良いところを見つけたり、比較したりすることができるようにする。	ワークシート グループ 個人 観察
終末 10分	8 まとめ ・感想を発表する。 9 次時の確認 10 挨拶	・場面の内容について理解したものと朗読の表現を関連づけて、感想をまとめさせる。 ・他のグループの表現から学んだことを次時の朗読に生かせるようまとめさせる。	個人 一斉 ワークシート